

# ふれあい

第 37 号

令和 3 年 6 月 20 日  
愛宕地区社会福祉協議会  
責任者 藤原 実



犯罪のない地域づくりは一人ひとり意識の高まりで！

会 長 藤 原 実

日頃から会員の皆様には、当地区の社協事業の推進に対しご理解とご協力を賜り心から感謝申し上げます。

令和 3 年度の定期総会も、新型コロナウイルスの感染防止のため、書面議決をお願いし、ご承認をいただきました。

今年度の「ふれあいサロン」については 4 月に開催しましたが、緊急事態宣言が出されたため、5 月、6 月の開催を中止したところです。

敬老会の祝賀会は旭川市の指示により、現在のところ中止の予定ですが、昨年と同様にお祝い品を贈りたいと考えております。

こうした中でも、密を避けながら役員によるサロン会員への電話での励ましの活動を続けているところです。

コロナ禍に関連し犯罪が増加していることが報じられています。

防災や犯罪被害「ゼロ」の地域を目指し活動されておられる地域の役員をはじめ関係者の皆様に心から敬意を表します。

犯罪が災害との大きな違いは人間の意思による行動で、犯罪が起こしやすい地域には明らかな特徴があるといわれています。犯罪者は「入りやすい場所（領域性が低い）」と「見えにくい（監視性が低い）」場所を下見しています。

2018 年に起きた、新潟市の小学生が殺害された JR の線路に遺棄された事件を思い出します。誰もがここは危険と指摘されていた場所で起きたのです。犯罪者は、「見えにくい、逃げやすい」（危険箇所）場所に被害者を誘導し、犯行に及ぶのです。

このような危険な場所を地域と学校が一体となって防犯地図を作り、犯罪者「ゼロ」を目指したいものです。

領域性を高める活動は、すでに、防犯旗や交通安全旗が整然と掲揚されていることで犯罪の抑止力になっています。また、監視性が低い例として、雑草が繁茂した場所を放置、ごみが散らかっていても苦にならない風潮が犯罪者を呼び寄せるといわれています。

犯罪のない地域づくりは、私たち一人ひとりの意識を高める行動により実現できるのではないのでしょうか。

結びに、このコロナ禍の中、市民委員会をはじめ、各町内会の役員、民生委員児童委員、地域包括支援センター、さらには地区ボランティアなど多くの地域の皆様のご支援・ご協力に心より感謝申し上げますとともに、皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

## 令和3年度の社協事業について

4月24日に予定していた定期総会は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため昨年に引き続き書面議決による総会となりました。今回も書面議決は本会を代表する27名の理事の皆さんにお願いし、各議案とも提案通り承認されました。

さて新年度がスタートしたばかりなのに新型コロナウイルスの感染拡大が止まらず、緊急事態宣言が出てしまいました。今年度も当社協の事業や活動はコロナ禍に翻弄されそうですが、今後の推進に当たっては感染状況をしっかり見極めながら開催等を検討していきたいと考えています。

### 主な事業の取り組みについて

#### 1 敬老会事業

9月19日予定の敬老祝賀会は、新型コロナウイルスの感染の長期化や感染予防の困難さ、ワクチン接種状況等に鑑み中止と致します。尚、長年に渡って社会に貢献されてきました対象者の皆さんには、感謝と長寿を祝い、ささやかですが記念品を贈らせていただきます。

#### 2 ふれあいサロン事業

愛宕富士住民会館でのサロン、4月は何とか実施することができました。その後は中止状態になっています。今後は新型コロナウイルスの感染状況を踏まえながら再開等を検討していきます。

#### 3 安心見守り事業

コロナ禍で本来の見守り活動が大変難しい状況になっています。担い手の皆さんには「そっと見まもり活動」を中心に進めていただきます。

#### 4 地域の特性活かした事業

「地域福祉を考える学習会」と「見守り活動情報交換会」については、新型コロナウイルスの感染状況を踏まえながら開催を検討していきます。小学生とのふれあい交流は中止とします。

## コロナ禍でのサロン会員さんの声

### 「一度の人生」

飯野 栄子

人生80年代後半を迎え生命の危機を感じるコロナ感染症で、昨年から今年と楽しみにしているサークル活動はすべて中止、お寺の境内で行っている朝の「ラジオ体操の会」も中止です。たまに外出にでも出かけて気分を晴らそうかなと思っても「自粛」とか言われそうで、つい足が止まってしまう。

こんな我慢の生活を続け一日一日年を重ねている内に体が動かなくなるのではと思う時、焦りや不安を感じる今日この頃です。皆さまはどのようにお暮らしですか。

私は外でのラジオ体操が中止なので、早朝30分ほどのウォーキングと、一日に1回から2回の体操を続けています。一度の人生です。悔いのない生き方をしたいと考えています。

コロナが収まり皆さんと逢える日を楽しみにしております。

## 「家庭菜園」

渡部 弘子

コロナ禍で自粛生活が長くなると、家に閉じこもっている時間が長くなり体を動かすことも少なくなりました。ただ、テレビを見る事が多くなり、いつの間にか間食も増え最近は太り気味で何も良いことはありません。

やっと新緑の暖かい季節となり、楽しみな家庭菜園の時期になりました。苗は買ってきたのですが、気温が上がらず苗は車庫に置いたままになっています。

連作を嫌う作物もあるので、どこに何を植えようか色々思案するのもいい頭の体操でボケ防止と考えると何も苦になりません。

以前は菜園づくりが始まると、お互いの畑に隣近所の人が集まり長話を楽しんでいたのですが、今はそんな光景は見られなくなりました。亡くなった方、子供との同居で転居された方など、近所付き合いも少なくなり淋しくなりました。

秋の収穫を期待して菜園作りを楽しみます！

## 「戦後を支えた高齢者」

元由 榮作

初夏の季節を迎え、ガーデニングや家庭菜園作りが始まりました。この時期になると気温も上がり、よそ様の庭のきれいな花を眺めながらの散歩は私の大きな楽しみです。

しかし、今はコロナ禍で道内は緊急事態宣言下にあり、「不要不急の外出や人との出会いの自粛」でふれあいサロンも中止。仲間の皆さんは如何お過ごしですか、ワクチン接種の予約はお済みになりましたか。

さて、政治の上では、国土防衛の名の下に防衛費は増大する反面、細菌から生命を守る研究と対策を怠ってきた「ツケ」が、今日の外国からのワクチンに頼っている状況で多数の死亡者が出ており残念でなりません。また、「東京五輪・パラリンピック」の開催を願う一人ですが、現在の状況ではとても困難だと思います。

私は、女房と二人の息子に先立たれ佗しい自立生活者です。一時は生きる目標を失い「自分は何の為に生きているのだろうか」と、思い悩んだ事もありますが、親から授かった尊い命でありお迎えが来るまで懸命に生きることを心に誓っております。

今、コロナ禍での辛い日が続いていますが、次のようなことに心がけて暮らしています。

- 1 コロナに感染しないように基本的な予防対策を徹底する。
- 2 ワクチン接種をしっかり受ける。
- 3 毎朝、7人の位牌が並ぶ仏壇に向かい御経をあげる。
- 4 毎週1回のデイサービスで筋肉ストレッチをする。
- 5 コロナ禍で囲碁の会は中止の為、パソコンで脳を刺激する。
- 6 サロンの終わりの「ヤマハ発動機」の笑いの実践をする。

私も含めふれあいサロンの皆さんは、戦中・戦後の混乱の時期を休む閑もなく働き遅く生きてきました。

今80代後半を迎え、親しい友人や知人との音信が途絶え寂しい思いをすることが多くなっています。

長引くコロナ禍からの一日も早い収束を願い、ふれあいサロンが開催され皆さんと元気でお会い出来ることを楽しみにしております。



## 令和3年度 愛宕地区社協役員

役職名	氏名	所 属	役職名	氏名	所 属
会 長	藤原 実	愛宕第二町内会長	理 事	見角 富子	愛宕中央町内女性部長
副会長	岡音 善幸	市民委員会副会長	理 事	横井 章	愛宕共生町内副会長
"	河治美智子	民生児童委員会副会長	理 事	津村 巡	愛宕第一町内会長
"	堤 儀雄	愛宕さつき町内元副会長	理 事	岡山千太郎	愛宕東町内副会長
監 査	小川 明成	愛宕第四町内副会長	理 事	大塚 一典	愛宕第三町内副会長
"	板垣 恵子	豊岡のぎく町内副会長	理 事	稲垣 克男	愛宕さつき町内副会長
会 計	寺岡 茂	民生児童委員会副会長	理 事	井田 俊美	愛宕ふたば町内副会長
事務局長	安田 茂	愛宕第三町内元会長	理 事	直枝 章	愛宕北町内会長
理 事	笠原 直邦	豊岡10・11条町内副会長	理 事	榎勢 敏昭	あゆみ町内副会長
理 事	芳野 恭男	豊岡4・7町内副会長	理 事	小野寺裕子	ボランティア代表
理 事	坂本 茂利	豊岡エステート町内会長	理 事	山廣 久二	民生児童委員
理 事	青沼 豊	愛宕第二町内副会長	理 事	藤井 秀子	ボランティア代表
理 事	増茂 薫	豊岡6の5町内総務部長	理 事	高島 町子	元市民委員会女性部長

### ● 隣近所でのそっと見守り ●

今、コロナ禍が長引く中で孤独・孤立が社会問題になっています。

この頃、身近で耳にすることですが、「隣近所の人や顔見知りの方と出会うことがめっきり減ってしまった」との声。皆さんの近所では如何でしょうか。普段の何気ないおしゃべりや交流が出来ないもどかしさを実感していませんか。

このまま不要不急の外出や人との出会いを我慢する閉じこもり生活が続いてしまうと、地域の中で孤立する心配が本当に起きてしまいます。

私どもの隣近所には多くのお年寄りの方が住んでいます。また、一人暮らしで頑張っているお年寄りの方も増えています。日々の生活の中でお互い顔を合わせた時には、「お元気ですか」「お変わりありませんか」の優しい一声は何よりも嬉しく元気につながります。

しかしながら、今はコロナ禍で自宅を直接訪問して元気づけたりすることは難しい状況です。

でも、隣近所だからこそ出来るそっと見守りがあります。

それは以下のような活動です。

- ◆ 「今朝もゴミ出しに行ったよ」
- ◆ 「暗くなったのに灯りが点かないぞ？」
- ◆ 「どこに買物に行くのかな」
- ◆ 「新聞や郵便物はたまっていないかな？」



隣近所に自分を気遣ってくれる人がいることは、お年寄りの皆さんにとっては嬉しく何よりも心強いことです。

この広報は赤い羽根共同募金の配分を受けて発行しています。

そして、隣近所の皆さんとつながることでお年寄りの皆さんは元気をもらい地域の中で安心・安全に過ごすことが出来ます。

### 編 集 後 記

地区社協広報「ふれあい37号」をお届けします。

青葉若葉の爽やかな季節となりましたが、会員の皆様におかれましてはお変わりなくお過ごしでしょうか。

今年度の事業もコロナ禍で思うように推進することが出来ずにいますが、早くワクチン接種が進み感染状況が小康状態になることを願うばかりです。

今後とも、会員の皆様の温かいご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。